

支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

社会福祉法人紀伊の郷 日置川みどり園
生活支援員主任 藤川 和貴

この時間で学ぶこと1

- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害の状態になることを予防する支援を行うことができます。
- この時間は、自閉症の特性をベースにした予防的な支援の在り方を理解することがテーマです。

この時間で学ぶこと2

- また、本人の状態像の変化に応じて支援をリニューアルしていかないと、本人とのズレが生じてしまうこともあります。その場合は、改めて今までの支援を見直し、さらに支援の補整や補強を行っていきます。

この時間の流れ

講義

 動画視聴

- ① 支援の道筋
- ② 目で見てわかる支援が基本
- ③ 支援のポイントはどこにあるか
- ④ 具体的な支援のアイデアを動画で
- ⑤ 支援を見直すことの重要性

① 支援の道筋

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

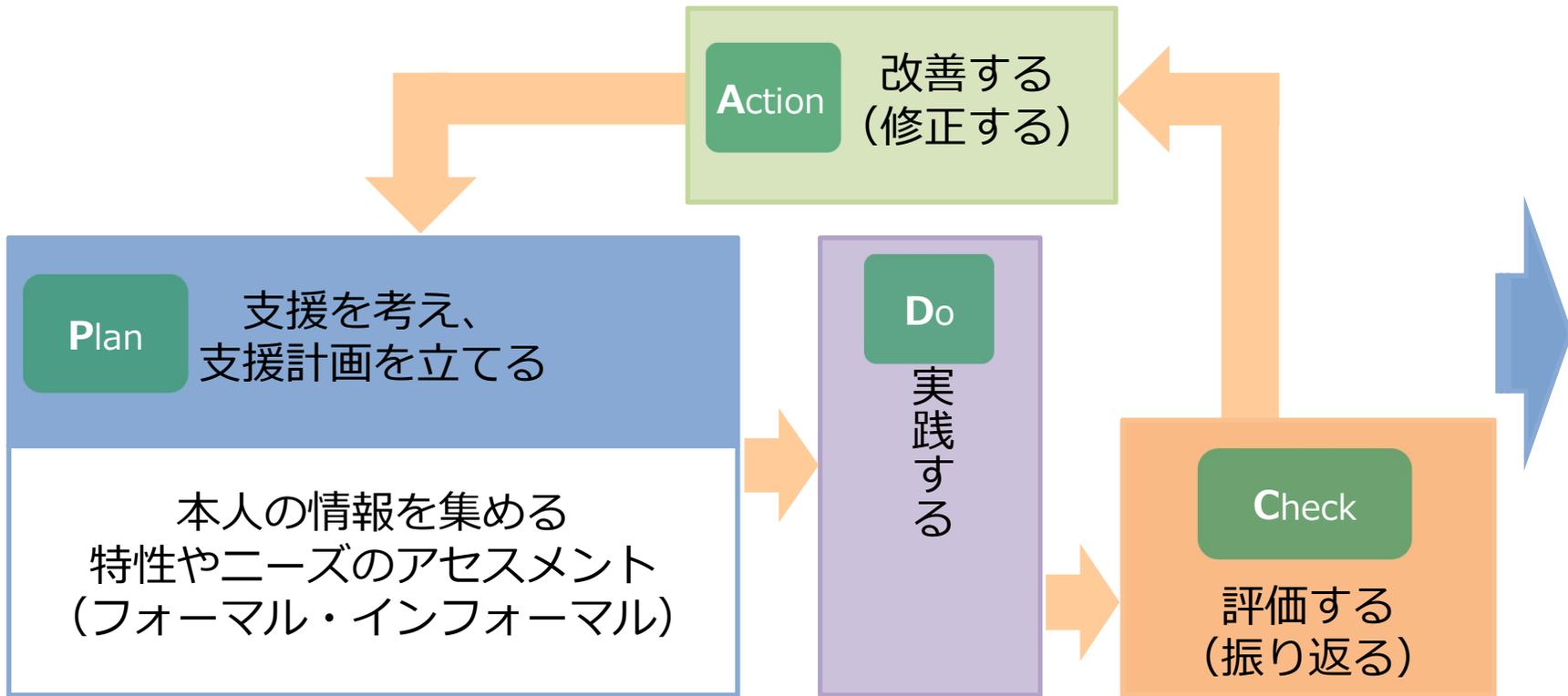
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、II について主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



よりよい人生へと向かう

予防的で基本的な支援

② 目で見てわかる支援が基本

- 目で見てわかる支援をするのはなぜか？
 - 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
 - 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
 - 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

- 目で見てわかる支援をするために
 - わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
 - = その人に合わせた支援
 - = 合理的配慮

構造化について

支援を考えていく上で重要になってくるのは、まず、一つ、環境の構造化です。構造化には主に4つの要素があります。

- 1 「」
- 2 「」
- 3 「」
- 4 「」

これらの4つの要素を組み合わせた環境の構造化による支援があります。

③ 支援のポイントはどこにあるか

確実に伝えたい6つの情報

- 「いつ」
- 「どこで」
- 「何を」
- 「どのくらい」
- 「どうやって」
- 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫
（コミュニケーションツール）

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫

(活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが1対1対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする

方法の工夫 (やり方・終わり・次)

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - やることの内容や数や順序が違っていても進め方は同じという“システム”を提示する。

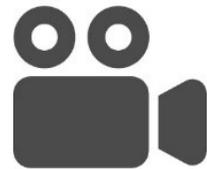
見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

④ 具体的な支援のアイデアを動画で



⑤ 支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

- 声のかけ方、指示の伝え方の工夫

声のかけ方、指示の伝え方の工夫

- 
- 
- 
- 
- 

- ・ 動機づけ(やる気を高める)

動機づけ(やる気を高める)

-
-
-

スモールステップ

- ・ 目標をスモールステップで上げる(シェイピング)
- ・ 複雑な行動を細分化して教える(課題分析とチェイニング)

シェイピング

- ・目標の行動に をほめる
- ・少しずつ を厳しくして、目標に近づける
- ・今を とせず、 として、
時々まざる を増やそうという発
想

練習問題



- ・「靴下をはく」という行動を、いくつかの具体的なステップに分けてください
- ・課題分析

ステップの考え方と指導の基本

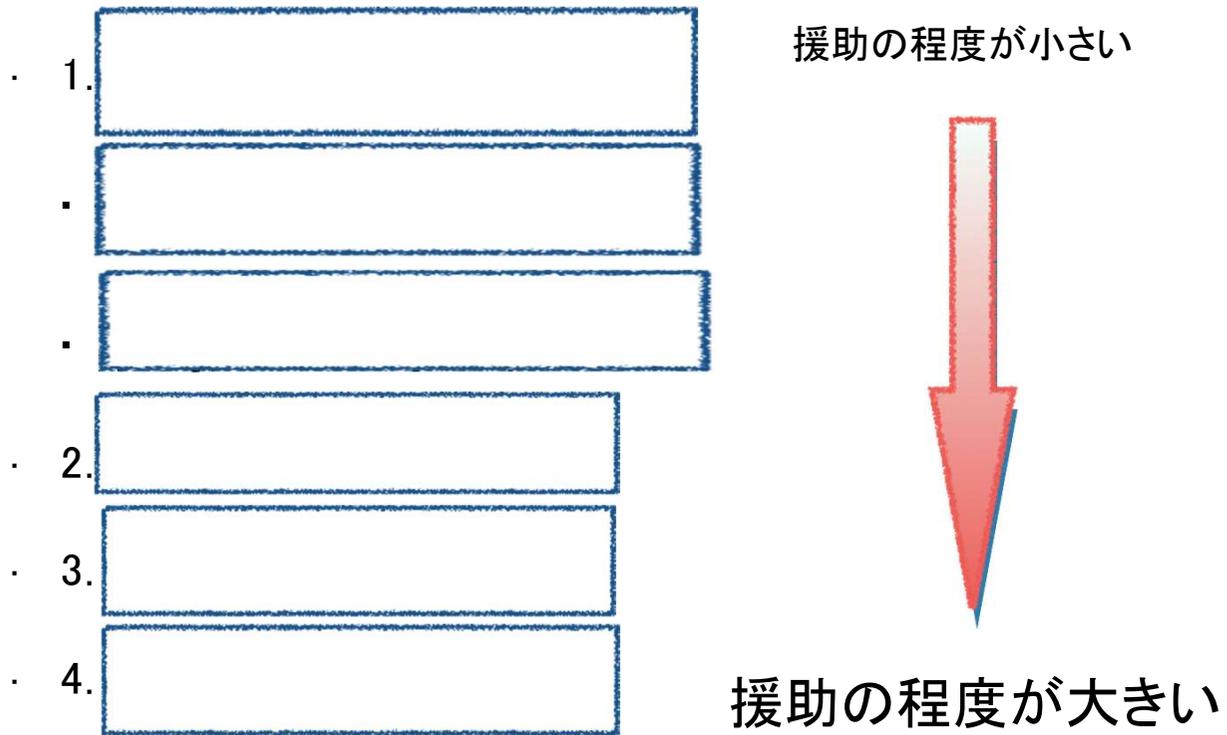
- ・ 各ステップは、誰が見ても同じ評価ができるような具体的な「行動」に設定する
 - ・ 良くない例: ~がわかる× ~を感じる× ~と思う×
- ・ ステップの細かさは対象者の実態に合わせる
- ・ できるだけ「お楽しみ」は最後のステップに
- ・ 記録を取って、つまずいているところを把握する
- ・ 援助とヒントを適切に使う

行動をつなぎ合わせる方法 (チェイニング)

- ・ 前から順番につなげる
 - ・ ①→①②→①②③→①②③④→…
- ・ 後ろから順番につなげる
 - ・ ⑤→④⑤→③④⑤→②③④⑤→…
- ・ 一通り全部やってみて、それを繰り返し練習する
 - ・ ①②③④⑤→①②③④⑤→①②③④⑤

- ・ 適切な援助

援助やヒント(プロンプト) の種類



援助やヒントの基本

- ・ 援助はできるだけ…どうであることが望ましい？
- ・ でも援助するからには、利用者さんに…どうしてもらわないといけない？

援助やヒントを抜いていく
テクニック
(フェイディング)

- ・ 援助の程度を 小→大
- ・ 援助の程度を 大→小

援助やヒントのコツ

- ・ すぐに援助しない。少し待ってみる
- ・ 支援者がどのレベルの援助を行っているのか自覚する(過剰な援助をしていないか意識する)
- ・ 援助の種類などの細かいところは対象者一人一人に合わせる

援助は「自立を促すもの」で なければならない

- ・ 成功体験を積み重ねながら、系統的に(さりげなく)、援助を抜いていくのがうまいやり方
- ・ 「最初から“完全放任”」は、必ずしも対象者の自発性や自立を促すわけではない
- ・ 「過保護」でも「放任」でもない「ちょうどいいライン」がある
 - ・ そのラインは変動する
 - ・ 少しずつ「自立」へ近づける

できることから始めましょう

- ・ 今日紹介した支援の考え方、支援の方法は知的障害や自閉症のある方皆さんにとって「あると助かる」ものであると思います
- ・ 行動障害を示している利用者さんに限定せずに、施設全体での取り組みとして「できることから」計画を立て、実行してみよう